

四半期報告書

(第81期第3四半期)

自 平成27年10月1日
至 平成27年12月31日

ニチコン株式会社

京都市中京区烏丸通御池上る
二条殿町551番地

E01904

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 6
- (2) 新株予約権等の状況 6
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 6
- (4) ライツプランの内容 6
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 6
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 7

2 役員の状況 7

第4 経理の状況 8

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 9
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 11
 - 四半期連結損益計算書 11
 - 四半期連結包括利益計算書 12
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 13

2 その他 16

第二部 提出会社の保証会社等の情報 17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月8日
【四半期会計期間】	第81期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 茂雄
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理本部長 近野 斉
【最寄りの連絡場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理本部長 近野 斉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第80期 第3四半期 連結累計期間	第81期 第3四半期 連結累計期間	第80期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	80,043	83,255	107,294
経常利益 (百万円)	5,262	4,128	5,655
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△） (百万円)	3,746	△825	2,258
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	8,039	△1,660	9,261
純資産額 (百万円)	105,171	101,279	104,955
総資産額 (百万円)	142,876	142,549	141,252
1株当たり四半期（当期）純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△） (円)	52.45	△11.85	31.65
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	72.5	70.0	73.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,106	4,155	7,787
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,758	△1,006	△1,611
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,108	△2,347	△5,253
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (百万円)	20,889	21,156	20,897

回次	第80期 第3四半期 連結会計期間	第81期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△） (円)	26.61	△48.70

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれていません。
3. 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期（当期）純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としています。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
5. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日～平成27年12月31日）のわが国経済は、個人消費の持ち直しや企業収益の改善などが見られましたが、新興国経済減速の影響を受け、景気の回復は緩やかなものとなりました。海外においては、米国経済は、個人消費の増加や雇用の改善状況が持続したことなどにより概ね堅調に推移し、欧州経済は、緩やかながらも回復基調が続きました。一方、新興国では、中国経済の減速がアジア諸国の景気にも影響を及ぼし、先行きの不透明感が強まりました。

当社グループが関連する市場においては、中国経済減速の影響などによりインバータ機器向けの売上に伸び悩みが見られましたが、電装化の進展により自動車関連機器向け需要が堅調に推移しました。また、エネルギー、環境関連分野への関心の高まりを受け、環境関連市場が引き続き拡大しました。

このような環境において当社は、重点事業戦略に沿って、デジタル&パワーエレクトロニクス分野に注力し、高い成長が期待できる自動車・産業機器向けを中心にコンデンサ事業を強化するとともに、NECST(Nichicon Energy Control System Technology)事業を当社経営の新たな柱にすべく注力しました。これにより、NECST事業の主力製品である家庭用蓄電システム「ホーム・パワー・ステーション」に加え、EV用急速充電器および公共・産業用の分散型電源システムなどの売上が伸長しました。

また、当社グループは、経営方針として、「トップノッチ経営」を掲げ、品質・コスト・納期・サービス・技術など、あらゆる面で最上級を目指し、顧客より高い信頼を得られるよう引き続き事業活動への展開を推進しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は83,255百万円と前年同期比4.0%の増収となりました。また、利益につきましては、営業利益は3,807百万円と前年同期比26.2%の増益、経常利益は4,128百万円と前年同期比21.6%の増益、親会社株主に帰属する四半期純損失は独占禁止法関連損失を計上したことなどにより825百万円（前年同期は3,746百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

製品区分別売上高につきましては、電子機器用は、主として自動車関連機器および産業機器向けが堅調でしたが、家電機器向けの売上が減少したことなどにより53,775百万円と前年同期比1.5%の減収となりました。

電力・機器用及び応用機器は、主として自動車および鉄道向けの機器用フィルムコンデンサの売上が減少したことなどにより7,431百万円と前年同期比11.9%の減収となりました。

回路製品は、各種電源および家庭用蓄電システムなどの需要が堅調に推移したことなどにより21,386百万円と前年同期比28.6%の増収となりました。

海外売上高につきましては、米州および欧州市場において自動車関連機器向けなどの売上が増加したことにより前年同期比0.3%の増収となりました。また、国内市場については、自動車関連機器向けの売上が堅調に推移したこと、および家庭用蓄電システムが対前年比で伸長したことなどにより前年同期比10.0%の増収となりました。これらの結果、連結売上高に占める海外売上高の割合は、前年同期比2.2ポイント低下し59.4%となりました。

設備投資につきましては、新規事業の成長を見据えた技術・開発投資および当社のコア事業の強化のための戦略的投資を中心に、1,804百万円を実施しました。

所在地別業績は、次のとおりです。

①日本

国内においては、自動車関連機器向けや産業機器向け各種コンデンサおよび家庭用蓄電システムの売上が堅調に推移したことなどにより、売上高は34,733百万円と前年同期比9.3%の増収となりました。営業利益は、差別化商品・高付加価値商品の拡販、生産性向上によるコストダウンなどの収益性向上対策を推進したことなどにより1,548百万円と前年同期比26.3%の増益となりました。

②米国

米国地域においては、自動車および情報通信向け需要が前年同期に比べ増加したことなどにより、売上高は5,583百万円と前年同期比10.8%の増収となりました。営業利益は、販売コスト増加などにより119百万円の営業損失（前年同期は74百万円の営業利益）となりました。

③アジア

アジア地域においては、家電機器向けの需要が落ち込んだことなどにより、売上高は36,551百万円と前年同期比2.1%の減収となりました。営業利益は、コスト削減を継続的に推進したことなどにより2,340百万円と前年同期比61.9%の増益となりました。

④欧州他

欧州その他の地域においては、自動車向け受注が堅調に推移したことにより、売上高は6,387百万円と前年同期比8.5%の増収となりました。営業利益は、ユーロ安の影響や販売コスト増加などにより119百万円と前年同期比57.4%の減益となりました。

・所在地別業績

前第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	31,773	5,036	37,344	5,888	80,043	—	80,043
(2)所在地間の内部売上高又は 振替高	15,589	—	4,641	—	20,230	△20,230	—
計	47,363	5,036	41,986	5,888	100,274	△20,230	80,043
営業利益	1,226	74	1,445	280	3,027	△10	3,017

当第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	34,733	5,583	36,551	6,387	83,255	—	83,255
(2)所在地間の内部売上高又は 振替高	19,821	2	6,407	—	26,232	△26,232	—
計	54,555	5,586	42,959	6,387	109,488	△26,232	83,255
営業利益又は営業損失 (△)	1,548	△119	2,340	119	3,889	△81	3,807

・海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	5,041	38,408	5,892	49,341
II 連結売上高（百万円）				80,043
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	6.3	48.0	7.3	61.6

当第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	5,588	37,501	6,391	49,481
II 連結売上高（百万円）				83,255
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	6.7	45.0	7.7	59.4

・販売実績

製品区分	前第3四半期連結累計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）		当第3四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）		増減	
	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	増減比 （%）
電子機器用	54,585	68.2	53,775	64.6	△809	△1.5
電力・機器用及び応用機器	8,431	10.5	7,431	8.9	△999	△11.9
回路製品	16,627	20.8	21,386	25.7	4,758	28.6
その他	399	0.5	662	0.8	263	65.9
合計	80,043	100.0	83,255	100.0	3,212	4.0

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ258百万円増加し21,156百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によって得られた資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ950百万円減少し4,155百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が616百万円となり、独占禁止法関連損失を4,057百万円計上したこと、減価償却費が3,231百万円発生した一方で、売上債権の増加額が2,313百万円となったこと、たな卸資産の増加額が1,293百万円となったことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ751百万円支出が減少し1,006百万円の支出となりました。これは主に、有価証券・投資有価証券の取得による支出が8,236百万円となりましたが、有価証券の売却及び償還による収入が10,069百万円となったことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動に使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ239百万円支出が増加し2,347百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払額が1,327百万円となったことに加え、自己株式の取得による支出が563百万円となったことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条3号に掲げる事項）は次のとおりです。

株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、「より良い地球環境の実現に努め、価値ある製品を創造し、明るい未来社会づくりに貢献していくこと」を経営理念に掲げています。また、倫理的・社会的責任を果たすとともに、株主の皆様をはじめとする全ての人々を大切にし、企業価値の最大化を目指して、「誠心誠意」をもって「考働」しています。

この経営理念に基づき、会社の支配に関する基本方針として、当社に対し買収提案が行われた場合は、これを受け入れるか否かの最終的な判断は、その時点における当社株主の皆様にご委ねされるべきであり、またその場合に株主の皆様が、十分な情報と相当な検討期間に基づき、公正で透明性の高い株主意思の確認手続きを通じた判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるようにすることが、企業価値および株主共同の利益の確保と向上のため必要であると考えています。

※考働：考えて働くという当社の造語。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は2,711百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	137,000,000
計	137,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	78,000,000	78,000,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	78,000,000	78,000,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	—	78,000,000	—	14,286	—	17,065

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

(平成27年12月31日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 8,359,700	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 69,580,200	695,802	—
単元未満株式	普通株式 60,100	—	—
発行済株式総数	78,000,000	—	—
総株主の議決権	—	695,802	—

(注) 「完全議決権株式 (自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式です。

② 【自己株式等】

(平成27年12月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
ニチコン株式会社	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地	8,359,700	—	8,359,700	10.7
計	—	8,359,700	—	8,359,700	10.7

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役職の異動は、次のとおりです。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	上席執行役員常務 経理本部長 兼 IR室長	取締役	執行役員常務 経理本部長 兼 IR室長	近野 齊	平成27年7月1日
取締役	執行役員常務 企画本部長 兼 企画本部 経営企画部長	取締役	執行役員 企画本部長 兼 企画本部 経営企画部長	矢野 明弘	平成27年7月1日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しています。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,897	21,156
受取手形及び売掛金	31,441	※ 33,256
有価証券	6,404	6,301
商品及び製品	7,004	7,832
仕掛品	5,127	6,129
原材料及び貯蔵品	5,603	5,880
その他	3,293	3,347
貸倒引当金	△104	△66
流動資産合計	79,667	83,838
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,152	12,687
機械装置及び運搬具（純額）	6,701	5,579
その他（純額）	6,347	6,496
有形固定資産合計	26,201	24,763
無形固定資産	571	774
投資その他の資産		
投資有価証券	32,870	30,989
その他	2,313	2,494
貸倒引当金	△373	△310
投資その他の資産合計	34,811	33,173
固定資産合計	61,584	58,711
資産合計	141,252	142,549

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,509	※ 17,375
短期借入金	1,800	1,800
未払法人税等	700	890
賞与引当金	936	500
その他の引当金	26	—
その他	7,417	※ 12,293
流動負債合計	27,389	32,859
固定負債		
その他の引当金	661	1,037
退職給付に係る負債	2,846	2,686
その他	5,398	4,686
固定負債合計	8,906	8,410
負債合計	36,296	41,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,286	14,286
資本剰余金	17,069	17,068
利益剰余金	69,265	67,112
自己株式	△9,557	△10,120
株主資本合計	91,063	88,346
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,499	7,429
為替換算調整勘定	4,735	3,968
その他の包括利益累計額合計	12,234	11,398
非支配株主持分	1,657	1,534
純資産合計	104,955	101,279
負債純資産合計	141,252	142,549

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	80,043	83,255
売上原価	67,406	68,270
売上総利益	12,637	14,985
販売費及び一般管理費	9,620	11,177
営業利益	3,017	3,807
営業外収益		
受取利息	119	164
受取配当金	519	418
為替差益	1,584	253
その他	128	215
営業外収益合計	2,351	1,052
営業外費用		
支払利息	47	29
持分法による投資損失	9	52
環境対策費用	—	550
その他	49	99
営業外費用合計	105	732
経常利益	5,262	4,128
特別利益		
投資有価証券売却益	91	—
固定資産売却益	7	559
特別利益合計	99	559
特別損失		
固定資産処分損	53	14
特別退職金	480	—
独占禁止法関連損失	—	4,057
特別損失合計	534	4,071
税金等調整前四半期純利益	4,828	616
法人税、住民税及び事業税	826	1,010
法人税等調整額	103	354
法人税等合計	929	1,364
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,898	△747
非支配株主に帰属する四半期純利益	152	77
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,746	△825

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,898	△747
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,846	△82
為替換算調整勘定	2,273	△786
持分法適用会社に対する持分相当額	21	△43
その他の包括利益合計	4,140	△912
四半期包括利益	8,039	△1,660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,784	△1,662
非支配株主に係る四半期包括利益	255	2

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,828	616
減価償却費	3,196	3,231
独占禁止法関連損失	-	4,057
売上債権の増減額 (△は増加)	786	△2,313
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△748	△1,293
仕入債務の増減額 (△は減少)	△380	954
その他	△2,047	△253
小計	5,633	5,000
法人税等の支払額	△1,119	△982
課徴金の支払額	-	△416
その他	591	554
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,106	4,155
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△5,641	△6,864
有価証券の売却及び償還による収入	11,610	10,069
有形固定資産の取得による支出	△1,417	△1,446
投資有価証券の取得による支出	△6,310	△1,371
事業譲受による支出	-	△2,381
その他	1	988
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,758	△1,006
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	500	-
長期借入金の返済による支出	△1,000	-
配当金の支払額	△1,214	△1,327
自己株式の取得による支出	△0	△563
その他	△393	△456
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,108	△2,347
現金及び現金同等物に係る換算差額	830	△542
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,070	258
現金及び現金同等物の期首残高	18,818	20,897
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 20,889	※ 21,156

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間より、譲り受けた事業の開始に伴い株式会社ユタカ電機製作所を連結の範囲に含めています。

(会計方針の変更)

・企業結合に関する会計基準等の適用

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
および「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しています。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しています。加えて、四半期純利益等の表示の変更および少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っています。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間および前連結会計年度については、四半期連結財務諸表および連結財務諸表の組替えを行っています。

当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しています。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)および事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しています。

これによる損益およびキャッシュ・フローに与える影響は軽微です。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しています。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	一百万円	233百万円
支払手形	—	523
流動負債その他(設備関係支払手形)	—	112

・公正取引委員会等による調査について

当社は、平成26年6月、アルミ電解コンデンサおよびタンタル電解コンデンサの販売に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立ち入り検査を受け、平成27年12月25日に公正取引委員会より、予定されている排除措置命令および課徴金納付命令に関する意見聴取手続を開始する旨の通知書を受領しました。その後、意見聴取通知書の内容を精査するとともに、公正取引委員会から証拠等の開示を受けましたが、認定事実および法令の適用に関して承服し難い点がありますので、意見聴取手続において当社の考え方を説明し、公正な判断を求めています。

また、当社の子会社であるNICHICON (HONG KONG) LTD. は、平成27年12月、台湾公平交易委員会 (Taiwan Fair Trade Commission) から、台湾におけるアルミ電解コンデンサおよびタンタル電解コンデンサの販売に関して、台湾競争法に違反したとして、制裁金を課す旨の処分書を受領しました。当社としましては、処分書の認定事実および処分の内容に関して承服し難い点がありますので、今後、対応を検討してまいります。

上記の公正取引委員会からの意見聴取通知書および台湾公平交易委員会からの処分書に基づき当第3四半期連結会計期間に特別損失（独占禁止法関連損失）を計上しております。

加えて、当社は、平成27年11月6日、欧州委員会から、欧州におけるアルミ電解コンデンサおよびタンタル電解コンデンサの販売に関する欧州競争法違反嫌疑についてのStatement of Objections（異議告知書）を受領しました。

以上のほか、当社グループは、コンデンサの販売に関して、米国等の当局による調査を受けています。当社としましては、各国の当局による調査に全面的に協力してまいり所存です。

なお、これらの手続は現在も継続中であり、その結果として当社の経営成績等にも影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
現金及び預金	20,889百万円	21,156百万円
現金及び現金同等物	20,889	21,156

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	571	8.0	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月5日 取締役会	普通株式	642	9.0	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	631	9.0	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	696	10.0	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)および当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

当社グループは、「コンデンサおよびその関連製品」の製造ならびに販売を主な事業としており、各拠点に製品の販売もしくは製造、またはその両方の機能を置き、本社はグループ全体の戦略を立案し、事業活動を展開しています。当社グループは、各拠点別を基礎とした事業セグメントから構成されており、経営意思決定および業績評価を行っていますが、当該事業セグメントの経済的特徴、製品およびサービスの内容、製品の製造方法または製造過程やサービスの提供方法などの要素が概ね類似していることから、「コンデンサおよびその関連製品」の単一の報告セグメントとしており、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	52円45銭	△11円85銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (百万円)	3,746	△825
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(百万円)	3,746	△825
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,438	69,667

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成27年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………696百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成27年12月4日

(注) 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月 4日

ニチコン株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松尾 雅芳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊東 昌一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチコン株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチコン株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

注記事項（公正取引委員会等による調査について）に記載されているとおり、会社グループはコンデンサの販売に関して、公正取引委員会の意見聴取通知書及び台湾公平交易委員会の処分書に基づき当第3四半期連結会計期間に特別損失（独占禁止法関連損失）を計上しているが、加えて、欧州競争法違反嫌疑により異議告知書を受領しているほか、米国等の当局による調査を受けている。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注） 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月8日
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 茂雄
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役経理本部長 近野 斉
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 吉田 茂雄および当社最高財務責任者 近野 齊は、当社の第81期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。